



中里の家だより
第 16 号

発行年月日
平成2年7月1日

発行
社会福祉法人
安房広域福祉会

〒294-02
館山市中里288-1
0470 (28) 2022

あたらしい年に当って

施設長 山口 一

「中里の家」は、四年目の夏を迎えます。

過日は三周年記念を関係者皆様と共に祝い、心を新たにしたい所があります。

同時に、懸案でありました定員増を図るための増築工事も完成し、これまた竣工の祝いを催した所でもあります。

これらは、ひとえに関係者皆様の深いご理解とご支援の結果であると感謝申しあげている次第であります。

さて、このたびの施設整備によりまして、中里の家の建物面積は

二、二三五平方メートルとなり、A・B・C三棟の居住棟に居室二十六室となりました。定員は八十名であります。これにより、この四月に二十二名の方が新しく入所され、いままでの方と合せて入所者合計七十二名となりました。近いうちに数名の入所が予定されておりますが、ともあれ大世帯となったわけでありませう。

入所者諸君は、夫々が特色のある個性をもった人達であります。私も、この入所者皆さんに、明るく楽しい人生を送って頂くために最大限の努力をしていかなければならぬと痛感している所でもあります。

ところで、この寄稿のタイトルを「あたらしい年に当って」と付けました。新年を迎えたとか、年度が改まったということではありません。

施設運営三年の実績は実績として評価しながらも、それに満足することなく、入所者の個性にあわせた処遇の展開を、より具体的に実践していかなければならない年を迎えたという意味であります。

更生施設の目的は「保護すると共に、更生を図る」ということに要約できると思いますが、論議は別として、わが中里の家ではこの目的にそうため、ゆるやかな改善ながら一つの試みとして、本年度から、入所者の適性・能力に応じたより良い処遇の展開を図るために、まず、身辺処理があまり自立できない者で保護を重点としたグループと、自立不完全ながらも訓練によって自立の可能性が期待できる者と、身辺処理がほぼ完全であり自立訓練を徹底して行う者との三グループを考え、夫々の特色

に依じた処遇を実施することとしました。

従って、行事とか各活動内容も画一的・全体的なものでなく、各グループ毎にその状況に応じたものを実施しております。

勿論、このグループの考え方は、固定化されたものではなく、入所者の適性に依り流動的に編成されるものであり、個別の判断は指導会議などによって明確にグループ所属を決めていくものであります。

これは、如何にして入所者の適性を生かし、能力を助長していくか、その一つの方法として取りあげた大胆な試みであります。唯一最善のものとは考えておりませんが、ぜひとも成果のあるものにしていきたいと思っております。

この試行が成功するように、そして入所者の処遇を一層充実するために、施設では、この七月に職員を増員しました。

中里ファミリーの生活は、これからも長く続くはずであります。

入所者の幸せのために「福祉の心」をもって共に歩んでまいりたいと存じます。



増築完成 三周年記念 祝賀会開かれる

去る六月三日当所食堂において、開設三周年並びに昨年九月より進められてきました居住棟の増築完成を記念する祝賀会が、関係各方面より多数御出席をいただき開催されました。

当日は、理事長挨拶、施設長現況報告の後來賓の方々より御祝辞を頂戴し、またこの三年間当所への深い御理解と御協力を寄せてくださった方々へ感謝状が贈呈されました。

この後保護者会会長、入所者・職員代表がそれぞれ、開設以来今日までの関係各機関・地域の方々の御協力、御理解に対して感謝の言葉を述べると共に、今後の変わらぬ御支援、御協力をお願いして挨拶をいたしました。



今年度の 主な

行事予定



- 四月 歓迎会
- 五月 マザー牧場遠足
行川アイランド遠足
- 六月 磯あそび
(以上 済)
- 七月 海水浴・映写会
- 八月 海水浴・納涼会
- 九月 八幡祭礼見物
南房パラダイス遠足
- 十月 運動会・映写会
- 十一月 一泊旅行・収穫祭
- 十二月 クリスマス会
餅つき大会
- 一月 成人式・新年会
映写会
- 二月 節分会
ファミリーパーク遠足
- 三月 ボーリング大会
苺狩り

4年目を迎えて

保護者会会長
三幣 欣一

開所以来三年を経過し、ここに四年目を迎えることになりました。子供達が明るく元気に過ごしている姿を見るにつけ、施設長さんをはじめ職員の皆様のきめ細かい御配慮のお蔭と厚く感謝に堪えないところであります。

このたびは念願でありました増築工事も立派に完成され、去る六月三日に多くの来賓の方々を迎え増築完成、並びに三周年記念祝賀会が盛大に挙行されましたことはまさに感激であり、御同慶に堪えないところであります。

増築に伴い現在七十二名を擁する大きな施設になった訳ですが、私達保護者として、施設に対する協力体制の重要性を痛感している

次第であります。

特に今年度入所された方々は施設での生活に不安な点があるうかと思いますが、私達障害を持つ子の親として、同じ立場にある仲間意識のもとで、お互いがおもいやり、励まし合う和やかな雰囲気こそ必要なことと思われまます。

施設で行われる行事の都度、子供達と一緒にうちとけて楽しく過ごす光景は全く微笑ましい限りです。幸い施設の綿密な事業計画に、保護者参加の機会があることは極めて有意義なことであり、大変有難いことと思っております。

施設の拡大に伴い管理・運営はより厳しさを増すことと思われまます。

私達は常に保護者としての「自覚」を持ち、「中里の家」のより発展につとめて参りたいと思っておりますので皆様方より一層の御協力を切にお願いする次第であります。

新任職員挨拶

指導員

大岩 真人

四月から当「中里の家」に勤務をしている、指導員の大岩です。

昭和40年9月30日生まれの24才、自宅は岩井の高崎です。

私の趣味は音楽で、東京在住時代、アマチュア合唱団に所属していました。最近の演奏会では、モーツァルトの「レクイエム」を歌っています。これは、私の最も心に残る感動する曲でした。のどはそれ程でもないのですが。

さて、三ヶ月程経ったのですが、園生に対する処遇の難しさを日々痛切に感じながらも、できる範囲で頑張っております。先輩職員の慣れた指導と共に実践をしている次第です。

私が障害児・者に接する職業に就こうと思ったのは高校時代からで、その後社会福祉学部に進学したのですが、現場と机上の理論と

の隔たりを大きく感じています。

園生のためにも、一日でも早く慣れるよう、先輩職員の指導を仰ぎながら、実践していきたいと思えます。どうぞよろしく願います。

指導員

宇山 由希子

こんにちは。私この春新任職員として中里の家にまいりました、宇山由希子と申します。

高校を出てから2年間、福祉関係の専門学校へ行っておりましたが、机の上と実践とは話にならない、私は2年間一体何をしていたのだらう、と悔んでしまいました。わからないことも多かったです。何んというわけはこの2ヶ月、悪戦苦闘をしまりました結果、現在では、猫の手よりはマシな存在ではないでしょうか。

ところで私、園芸班に所属しておりますが、こと植物に関しては何もわかっていないので、園芸班といわれたとき脳裏に浮かんだのは、「蘭が枯れる…」でした。そんな思いをよそに、温室では蘭が女王然としています。そうです、蘭が女王なら、その下をはいずりまわっている私はさしずめ侍女。がんばって素敵な花を咲かせたいと思います。(自分の花も♡)

あきもせず失敗をくりかえすと思います。がよろしく願います。

指導員

山下治美

私は、この四月からこの職員として働いている山下治美です。自宅は館山の宮城、自衛隊の近くの豆腐屋です。毎日ここから中里までフラワーラインを通ってドライブ気分です。この仕事は自分が好きで選んだ仕事です。この施設で丁度職員を募集されていて運良く入ることができて喜んでいきます。先輩の職員方も皆よい人達ばかりで明るく楽しい職場で、より一層働きたいと感じています。スタートしてからもう三ヶ月たとうとしています。まだまだ未熟者で皆さんにご迷惑をおかけすることがあるかと思いますが、先輩の職員

方に指導して頂きがんばっていきますのでどうぞよろしく願います。

指導員

淡路はつみ

この4月から新任職員として働いている淡路はつみです。

高校をでたばかりなので、福祉の事を何も知らずに中里の家へきました。私にとってここでの仕事は、見る事・聞く事が、初めての事でも不安でした。高校の頃、自分が、福祉の仕事につくなんて、まったく考えた事ありませんでした。でも先輩の職員の方々が、やさしい方ばかりで、明るく楽しい職場なので安心しました。このごろ仕事にも少しずつなれてきました。これも先輩の職員の方々のやさしいご指導のおかげだと思っています。中里の家にきてあつというまに3ヶ月がたとうとしています。が、いままでも先輩の職員の方々にご迷惑をおかけしました。これからたくさんご迷惑をおかけするかと思いますので先輩の職員の方々にご指導して頂きながら頑張っていきますのでこれからよろしくおねがいいたします。

お知らせ

職員の動き

○三月三十一日付退職

指導員 加藤まゆみ

〃 畠山和子

○四月一日付採用

指導員 大岩真人

〃 宇山由希子

〃 山下治美

〃 淡路はつみ

○六月三十日付退職

指導員 鎌田善一

〃 鎌田治実

看護婦 古川 操

退職された方々、お世話になりました。どうぞお元気で。

○指導員・岡田義之が、六月

二日結婚いたしました。

素晴らしい伴侶を得て、今後益々活躍してくれることと期待しています。

編集後記

今年度第一回目の「虹」をお届けいたします。この四月に新しく二十二名の入所者を迎え入れ、当初は賑やかな忙しい日々を過ごしましたが、最近は大分慣れて規則的な生活を送れるようになってきました。健康面に留意しつつ、充実した生活が送れるよう配慮していきたいと考えています。

「虹」も紙面作り工夫してお届けしたいと種々検討しておりますので、ご意見等お寄せください。

